聖霊降臨節第 5 主日礼拝説教要旨(6 月 21 日)

『失われた羊』早川 真牧師

ルカによる福音書 15:1-7

今朝の聖書個所である見失った羊のたとえでは、ある百匹の羊を持っている人がいてその中の一匹を見失った場合、残りの 99 匹を野原に残して見失った一匹を探しに行かないだろうかと言われています。この野原と訳されている言葉ですが、元の言葉では荒れ野という意味です。荒れ野は決して安全な場所ではありません。野獣のいる危険な場所です。もし一匹の羊を探しに行っている間に荒れ野に残された 99 匹の羊を野獣が群れを襲ったら元も子もないではないかと思います。

しかしこの羊飼いは見失った一匹の羊のことしか眼中にありません。これは神の、私たち一人一人に対する眼差しを表しています。それほどにあなたという存在が神の目に大切な存在であるということです。あなたしか見えないというそのような眼差しで、神様は私達一人一人を見ってくださっています。私たちが群れから離れてしまった一匹の羊のようである時、神は全てを捨てて私たちを探しに来てくださるお方であるということが示されています。

そして羊飼いはその一匹の羊を見つけると担いで家に連れて帰ります。そこにはもう二度とあなたを離さないという飼い主の喜びと、疲れ果て、もう歩けない私たち一人一人を担いで神の家に連れ帰らせて下さる神様の愛が表れています。

天の父の御心は失われた者が一人も滅びることなく父のもとに立ち帰ることです。イエス・キリストは私たちをどこまでも愛し十字架にかかられました。それは私たちを救い出すためならどんな犠牲をもいとわない神の愛を示しています。失われた羊を神の家に連れ帰るためまさに谷底まで降ってくださった、この良い羊飼いであるイエス・キリストに導かれて天の御国に向かい共に歩んでまいりたいと思います。